

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年11月13日
【四半期会計期間】	第100期第2四半期（自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日）
【会社名】	大建工業株式会社
【英訳名】	DAIKEN CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 億田 正則
【本店の所在の場所】	富山県南砺市井波1番地1 上記は登記上の本店で、本店の事務を行っている場所は 大阪市北区堂島一丁目6番20号（堂島アバンザ）
【電話番号】	（06）6452-6340
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員財務経理部長 照林 尚志
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区外神田三丁目12番8号（住友不動産秋葉原ビル）
【電話番号】	（03）6271-7851
【事務連絡者氏名】	財務経理部 三宅 猛
【縦覧に供する場所】	大建工業株式会社本社大阪事務所 （大阪市北区堂島一丁目6番20号） 大建工業株式会社東京事務所 （東京都千代田区外神田三丁目12番8号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次		第99期 第2四半期 連結累計期間	第100期 第2四半期 連結累計期間	第99期
会計期間		自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	自平成27年4月1日 至平成27年9月30日	自平成26年4月1日 至平成27年3月31日
売上高	(百万円)	82,588	81,702	168,833
経常利益	(百万円)	2,120	2,460	4,648
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益	(百万円)	1,313	2,610	2,736
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,934	593	5,709
純資産額	(百万円)	41,951	43,953	44,984
総資産額	(百万円)	132,785	132,606	135,596
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	10.65	21.48	22.34
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	28.2	31.0	29.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	2,230	1,087	9,299
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	2,198	2,247	4,072
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,670	3,150	2,635
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	12,566	12,191	16,774

回次		第99期 第2四半期 連結会計期間	第100期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自平成26年7月1日 至平成26年9月30日	自平成27年7月1日 至平成27年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	6.55	1.99

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動につきましては、当社は、平成27年1月30日開催の取締役会決議に基づき、平成27年4月1日付で三重ダイケン(株)、岡山大建工業(株)及び東部大建工業(株)を井波大建工業(株)に吸収合併し、同日付で井波大建工業(株)を当社に吸収合併いたしました。これにより三重ダイケン(株)、岡山大建工業(株)、東部大建工業(株)及び井波大建工業(株)を連結の範囲から除外しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、企業収益や雇用情勢が改善し、個人消費に持ち直しの兆しがみられるなど、緩やかな回復基調で推移しました。

住宅建設分野におきましては、賃貸住宅が比較的好調を維持し、持ち家や分譲住宅にも回復の兆しがみられましたが、着工床面積は過去と比較しても低い水準で推移しており、厳しい環境が継続しております。一方、公共・商業建築（非住宅）分野においては、宿泊施設、飲食店舗や製造工場等を中心に民間建設工事受注が上向いております。

このような経営環境のもと、当社グループは、国内の新設住宅着工に左右されない事業構造への転換を進めました。

国内においては、主要な4つの製造子会社を統合することでより経営の効率化と人材の流動化による組織の活性化、開発、製造、営業の一体化を図りました。また、施工力のさらなる強化と、住空間・エコ・エンジニアリングの3事業間の連携によるシナジー効果の最大化を目的とした組織体制の整備を行いました。

市場別には、住宅リフォーム市場において、TOTO㈱、YKK AP㈱と共同でTDYグリーンリモデルフェアを東京（4月）、名古屋（5月）、大阪（6月）、福岡（7月）で開催し、リフォームを予定しているエンドユーザーに対して、当社製品の魅力を伝える提案を行いました。

一方、利益面においては、合板などの輸入品を中心とした原材料コストの上昇に対して、各種合理化を進めるとともに、販売価格の改定を市場へ浸透させることで、改善を図りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高817億2百万円（前年同期比1.1%減）、営業利益24億52百万円（前年同期比70.5%増）、経常利益24億60百万円（前年同期比16.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益26億10百万円（前年同期比98.8%増）となりました。

なお、当社グループは、本年5月に、10年後の2025年を目指した長期ビジョン『GP25』を策定し、日本国内における『住宅用建材のメーカー』という企業像から、建材だけでなく、建材に使用する素材の供給から建材の施工・工事までを手掛けること、また、住宅だけでなく、公共・商業建築分野、産業資材分野まで幅広く展開すること、更に、国内だけでなく、海外に展開する『建築資材の総合企業』を目指すことを宣言致しました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### （住空間事業）

住空間事業につきましては、比較的好調な賃貸住宅市場、重点市場として位置づけている住宅リフォーム市場や高齢者住宅・施設市場での売上拡大に努めました。賃貸住宅市場においては、階下や隣室への音に関する市場ニーズの高まりから防音を切り口とした製品の採用が増え、売上を伸ばしました。高齢者住宅・施設市場においては、当社独自のWPC技術を活用した床材製品を拡充し、提案の幅を広げました。住宅リフォーム市場では、省施工の床材・収納などの新製品の提案を進め、売上を伸ばしました。

一方、利益面におきましては、輸入品を中心とした原材料コストの上昇に対して国産木材の活用推進などで抑制を図るとともに、各種合理化を進めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高426億85百万円（前年同期比2.6%増）、経常利益19億20百万円（前年同期比92.1%増）となりました。

(エコ事業)

エコ事業につきましては、MDFにおいて、住宅向け床用MDFの採用増により売上を伸ばしました。

公共・商業施設向けにおいては、省施工・短工期で天井の耐震化が可能な、独自の新耐震天井工法「ダイケンハイブリッド天井」の提案を進めました。また、主に物流倉庫や店舗等の外装耐火下地材用途のダイライト不燃板を新たに開発し、軽量性による現場での作業効率の向上を特長とした新提案を開始致しました。

一方、利益面におきましては、石化原料や木質原料のコストダウンを進めましたが、インシュレーションボードの売上の減少の影響を受け、悪化しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高274億17百万円（前年同期比0.9%減）、経常利益4億72百万円（前年同期比53.1%減）となりました。

(エンジニアリング事業)

エンジニアリング事業につきましては、公共・商業建築分野を中心とした内装工事において、重点エリアとして取り組んでいる首都圏で売上を拡大することができましたが、近畿圏では、工事需要が想定より伸びず、苦戦しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高61億26百万円（前年同期比18.5%減）、経常利益5百万円（前年同期比95.0%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ45億82百万円減少し121億91百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は10億87百万円（前年同期比51.2%減）となりました。これは税金等調整前四半期純利益の計上等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は22億47百万円（前年同期比2.2%増）となりました。これは有形固定資産の取得等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は31億50百万円（前年同期比88.6%増）となりました。これは長期借入金の返済等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、6億96百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第2四半期連結累計期間において、経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通しについて、重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	398,218,000
計	398,218,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	125,875,219	125,875,219	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 1,000株
計	125,875,219	125,875,219	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数 (千株)	発行済株式総数 残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年7月1日～ 平成27年9月30日	-	125,875	-	13,150	-	11,850

(6)【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
伊藤忠商事株式会社	東京都港区北青山二丁目5番1号	31,948	25.38
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	4,934	3.92
住友生命保険相互会社	東京都中央区築地七丁目18番24号	4,656	3.70
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	4,440	3.53
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY (常任代理人 シティバンク銀行株 式会社)	388 GREENWICH STREET, NEW YORK, NY 10013 USA (東京都新宿区新宿六丁目27番30号)	3,768	2.99
大建工業取引先持株会	大阪市北区堂島一丁目6番20号	3,431	2.73
住友林業株式会社	東京都千代田区大手町一丁目3番2号	3,191	2.54
丸紅株式会社	東京都千代田区大手町一丁目4番2号	2,821	2.24
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	2,728	2.17
三井住友海上火災保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台三丁目9番地	2,608	2.07
計	-	64,527	51.26

(注) 1. 上記のほか、当社は自己株式を4,358千株所有しており、発行済株式総数に対する当該自己株式数の割合は、3.46%であります。

2. 「所有株式数」は千株未満を切捨て、「発行済株式総数に対する所有株式数の割合」は、小数点以下第3位を四捨五入しております。

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 4,367,000	-	単元株式数 1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 121,323,000	121,323	同上
単元未満株式	普通株式 185,219	-	-
発行済株式総数	125,875,219	-	-
総株主の議決権	-	121,323	-

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
(自己保有株式) 大建工業株式会社	富山県南砺市井波1番地1	4,358,000	-	4,358,000	3.46
(相互保有株式) 株式会社岡山臨港	岡山市南区海岸通二丁目 1番16号	9,000	-	9,000	0.01
計	-	4,367,000	-	4,367,000	3.47

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、仰星監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	16,774	12,191
受取手形及び売掛金	32,722	37,415
商品及び製品	9,163	8,978
仕掛品	3,153	4,346
原材料及び貯蔵品	5,061	4,810
繰延税金資産	2,511	2,654
その他	1,825	1,657
貸倒引当金	281	283
流動資産合計	70,931	71,772
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,454	8,950
機械装置及び運搬具(純額)	10,338	9,608
土地	15,682	15,615
建設仮勘定	844	1,297
その他(純額)	2,247	1,881
有形固定資産合計	38,565	37,353
無形固定資産		
のれん	750	20
その他	1,628	2,033
無形固定資産合計	2,378	2,053
投資その他の資産		
投資有価証券	15,303	15,518
退職給付に係る資産	3,382	3,259
繰延税金資産	3,104	710
その他	1,905	1,930
貸倒引当金	47	46
投資その他の資産合計	23,648	21,371
固定資産合計	64,592	60,778
繰延資産	72	55
資産合計	135,596	132,606

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	24,104	24,455
短期借入金	9,267	8,849
1年内償還予定の社債	5,000	5,000
1年内返済予定の長期借入金	3,013	3,833
未払金	18,693	18,450
未払法人税等	406	259
賞与引当金	1,869	1,690
製品保証引当金	1,058	964
その他	3,872	5,082
流動負債合計	67,286	68,587
固定負債		
社債	5,400	5,400
長期借入金	11,266	9,134
繰延税金負債	1,890	920
製品保証引当金	1,384	1,243
退職給付に係る負債	2,910	2,948
負ののれん	72	60
その他	400	358
固定負債合計	23,325	20,065
負債合計	90,611	88,652
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	13,150	13,150
資本剰余金	11,850	11,788
利益剰余金	13,478	14,403
自己株式	2,302	1,072
株主資本合計	36,177	38,269
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,158	3,568
繰延ヘッジ損益	83	577
為替換算調整勘定	1,303	4
退職給付に係る調整累計額	148	126
その他の包括利益累計額合計	4,396	2,869
非支配株主持分	4,410	2,814
純資産合計	44,984	43,953
負債純資産合計	135,596	132,606

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	82,588	81,702
売上原価	64,203	62,494
売上総利益	18,385	19,208
販売費及び一般管理費	1 16,946	1 16,755
営業利益	1,438	2,452
営業外収益		
受取利息	32	26
受取配当金	151	172
負ののれん償却額	5	5
持分法による投資利益	22	20
為替差益	337	-
その他	482	313
営業外収益合計	1,032	538
営業外費用		
支払利息	187	189
売上割引	79	71
売上債権売却損	38	30
為替差損	-	196
その他	45	42
営業外費用合計	349	530
経常利益	2,120	2,460
特別利益		
固定資産売却益	5	5
投資有価証券売却益	3	1
受取保険金	-	2,601
特別利益合計	9	2,608
特別損失		
固定資産除却損	115	67
のれん償却額	-	686
その他	1	4
特別損失合計	117	759
税金等調整前四半期純利益	2,013	4,309
法人税、住民税及び事業税	200	233
法人税等調整額	360	1,399
法人税等合計	561	1,632
四半期純利益	1,451	2,677
非支配株主に帰属する四半期純利益	138	67
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,313	2,610

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益	1,451	2,677
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	354	409
繰延ヘッジ損益	232	822
為替換算調整勘定	291	1,691
退職給付に係る調整額	68	21
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	482	2,083
四半期包括利益	1,934	593
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,678	1,082
非支配株主に係る四半期包括利益	255	488

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,013	4,309
減価償却費	1,979	1,883
固定資産除却損	115	67
固定資産売却損益(は益)	5	5
投資有価証券売却損益(は益)	3	1
のれん償却額	37	717
貸倒引当金の増減額(は減少)	60	1
賞与引当金の増減額(は減少)	108	167
製品保証引当金の増減額(は減少)	844	235
事業構造改善引当金の増減額(は減少)	4	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	162	161
受取利息及び受取配当金	183	199
支払利息	187	189
為替差損益(は益)	16	191
持分法による投資損益(は益)	22	20
受取保険金	-	2,601
売上債権の増減額(は増加)	2,184	4,817
たな卸資産の増減額(は増加)	646	1,223
仕入債務の増減額(は減少)	2,399	99
未払費用の増減額(は減少)	21	155
その他	587	294
小計	2,625	1,199
利息及び配当金の受取額	183	199
利息の支払額	187	187
法人税等の支払額	390	325
保険金の受取額	-	2,601
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,230	1,087
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	1,738	1,994
有形固定資産の売却による収入	9	6
投資有価証券の取得による支出	234	95
投資有価証券の売却及び償還による収入	22	510
その他	257	674
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,198	2,247
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	23	191
長期借入れによる収入	1,600	100
長期借入金の返済による支出	1,876	1,411
ファイナンス・リース債務の返済による支出	22	21
自己株式の取得による支出	879	0
配当金の支払額	470	455
非支配株主への配当金の支払額	45	26
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	-	1,143
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,670	3,150
現金及び現金同等物に係る換算差額	95	273
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,542	4,582
現金及び現金同等物の期首残高	14,096	16,774
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	12	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 12,566	1 12,191

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当社は、平成27年1月30日開催の取締役会決議に基づき、平成27年4月1日付で三重ダイケン(株)、岡山大建工業(株)及び東部大建工業(株)を井波大建工業(株)に吸収合併し、同日付で井波大建工業(株)を当社に吸収合併いたしました。これにより三重ダイケン(株)、岡山大建工業(株)、東部大建工業(株)及び井波大建工業(株)を連結の範囲から除外しております。

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。 )、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。 )及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。 )等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

当第2四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58 - 2項(4)、連結会計基準第44 - 5項(4)及び事業分離等会計基準第57 - 4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。また、当第2四半期連結会計期間末の資本剰余金が62百万円減少しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

債権流動化に伴う買戻し義務

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
債権流動化に伴う買戻し義務	1,526百万円	1,285百万円

2 受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
受取手形裏書譲渡高	1,357百万円	1,477百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
運賃保管料	5,616百万円	5,391百万円
製品保証引当金繰入額	-	285
給料手当	3,753	3,666
賞与引当金繰入額	1,206	1,075
退職給付費用	358	305

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
現金及び預金勘定	12,566百万円	12,191百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	12,566	12,191

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	470	3.75	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年11月7日 取締役会	普通株式	459	3.75	平成26年9月30日	平成26年12月8日	利益剰余金

3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成26年5月12日開催の取締役会決議に基づき、自己株式3,000,000株の取得を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が878百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が2,059百万円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	455	3.75	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年11月6日 取締役会	普通株式	637	5.25	平成27年9月30日	平成27年12月8日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額には、当社創立70周年記念配当1円50銭が含まれております。

3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成27年5月18日開催の取締役会決議に基づき、平成27年6月5日付で、自己株式5,000,000株を消却いたしました。この結果、当第2四半期連結累計期間において資本剰余金が0百万円、利益剰余金が1,229百万円それぞれ減少し、自己株式が1,229百万円減少しております。なお、当第2四半期連結会計期間末の資本剰余金は11,788百万円、利益剰余金は14,403百万円、自己株式は1,072百万円となりました。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	住空間 事業	エコ事業	エンジ アリン グ事 業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	41,597	27,675	7,521	76,793	5,795	82,588	-	82,588
セグメント間の内部 売上高又は振替高	250	2,164	1,051	3,466	220	3,687	3,687	-
計	41,847	29,839	8,572	80,259	6,015	86,275	3,687	82,588
セグメント利益	999	1,007	110	2,116	4	2,120	-	2,120

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	住空間 事業	エコ事業	エンジ アリン グ 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	42,685	27,417	6,126	76,228	5,473	81,702	-	81,702
セグメント間の内部 売上高又は振替高	362	2,578	984	3,925	215	4,140	4,140	-
計	43,047	29,995	7,110	80,153	5,689	85,843	4,140	81,702
セグメント利益	1,920	472	5	2,397	63	2,460	-	2,460

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「エコ事業」セグメントにおいて、特別損失としてののれん償却額を686百万円計上しております。当該のれん償却額は、「連結財務諸表における資本連結手続に関する実務指針」(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第7号 平成26年11月28日)第32項の規定に基づき、連結子会社株式の減損処理に伴って、のれんを一括償却したものであります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

DAIKEN SARAWAK SDN.BHD. (MDF製造)

DAIKEN MIRI SDN.BHD. (MDF製造)

(2) 企業結合日

平成27年7月1日(みなし取得日)

(3) 企業結合の法的形式

非支配株主からの株式取得

(4) 結合後企業の名称

変更ありません。

(5) その他取引の概要に関する事項

資本関係をより強固なものとするため、非支配株主が保有する株式を取得したものであります。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引等のうち、非支配株主との取引として処理しております。

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金及び預金	1,143百万円
取得原価		1,143

なお、「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、追加取得持分と追加投資額との間に生じた差額62百万円は資本剰余金として処理しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	10円65銭	21円48銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	1,313	2,610
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益金額(百万円)	1,313	2,610
普通株式の期中平均株式数(千株)	123,305	121,517

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成27年11月6日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....637百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....5円25銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成27年12月8日

(注) 1. 平成27年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

2. 1株当たりの金額には、当社創立70周年記念配当1円50銭が含まれております。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月6日

大建工業株式会社

取締役会 御中

### 仰星監査法人

代表社員 公認会計士 向山典佐  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 寺本 悟  
業務執行社員

業務執行社員 公認会計士 田邊太郎

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大建工業株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、大建工業株式会社及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。